



# リーズレター 春夏秋冬 2019年立春

No.18 (通No.97)

<http://www.leeslee.com>

2019年2月4日

Personal Assistant for You LEE'S 自分ならではの事業と人生を究めるあなたの支えに

## 「寛容」に親しみ「面倒」をきらわず



### 「立春」と「旧正月」

二十四節気は太陽を、「旧暦」は月をもとにした暦。旧暦は新暦と一ヶ月ぐらいのずれ、毎年旧暦正月元日は日が変わり、今年は2月5日。その前日4日は「立春」なので、今年は陽と陰がづらなって、新しい春をつけてくれます。例年にもまして「春が来た！」感がみなぎっていきそう。そう思うようにして、意気揚々と春を始めましょう。

2019年も2月に入りましたが、年始1月3日のNHKBS番組に『欲望の資本主義』がありました。たまたまチャンネルを合わせたら過去2年分の再放送も含め一挙放送していたのです。

こういう番組には時々新進気鋭の論客が登場します。知っている人はよく知っているのですが、一般人には初めてその存在を知るプロフェッショナルたちが、いま起こっていることの〈なぜ〉を教えてください。

2017年から3年分を一気にみました。見終えて、印象に残ったのは、「世界はいま寛容さをなくしてきている」。寛容さ…か、たしかに。

寛容。「心が広くて、よく人の言動を受け入れること、他の過ちや欠点を厳しく責めないこと、そのさま」。

寛容さがないということは、心が狭くて、人の言動を受け入れず、他の過ちや欠点を厳しく責めること。そうい

う環境・組織を想像すると、なんともギスギスして、息苦しい。

「ぬるま湯」ではなく、お互いに、全体にとって、よりよい状況をつくろうと前向きに臨む姿勢、それが「寛容」であるはずなのに。

さて別途、「面倒くさい」というときの「面倒」。最近この言葉をよく耳にして気になっています。

簡単で便利な社会になるのはいいとして、そこに埋没してしまうと、本来は手間ひまかけてやるべき仕事やコトを、しだいに「面倒」に感じ、やらなくなる…。人間はよくもわるくも〈慣れ〉の生きものですから、そうなるわが身も容易に想像できます。

新しい一年が始まったばかりでもあるので、あらためて、「寛容」を身に合わせ、「面倒」がらずに、人と関係し、仕事をして、日常をすごしていこうと思う2019年立春です。

新しい春にふさわしい催し！

女性のキャリアを拓く

『まなびフェスタ』

平成31年2月24日(日)

10:00~16:00

クレオ大阪中央館

トークセッション、ワークショップ、適職診断もある一日たっぷり「わたしの未来を考える、出会う(?)」day

LEE'S リーズ

〒530-0012

大阪市北区芝田2-8-15

北梅田ビル35号

パーソナル・アシスタント

リー・ヤマネ・清実

### 「見聞感考」『大人って、どういうことでしょうね…』

年齢で人を語れなくなって久しい世の中、街なかや電車内の光景が象徴的です。歩きスマホは危険で他の迷惑になるのは、ちょっと考えればわかることですが、止めない大人は多い。

いつか会った若者が「カッコいい大人になりたいんです、でもどんな大人がカッコいいのか、まだわからないんですけどね」。

二十歳前の男子が自身をある程度俯瞰してみられていることを意外に感じつつ、とっさに返したのは、「それは世の中に迎合しない人じゃない?」。5年ほど前のことですが、今もそれは一理あるだろうと思います。

そろそろ人生の後半にさしかかってきた女性が、独り言をつぶやくように聞いてきました。「大人って、どういうことをさして、大人って言えるでしょうね…」。

そういうことを考えさせられる年齢になるのだなあと思いつつ、「それは心の安定、心の育て方がうまくできているかどうかじゃない?」。

誰でも紆余世曲折の人生、さまざまな局面に合い、よいときもわるいときも、心みださず、人の心のみださず、前へすすむ心のありよう。潔さが身にそなわった状態。大人になることはむずかしいことですが、長い時間をかけて努めたいことです。